

ホルモン分泌不全

手術基本情報

- **系統**：ラット Crl:CD(SD)
- **性別**：雄・雌
- **週齢**：5週齢以上(手術時体重90g以上)
- **手術時間**：20-25分
- **術後観察期間**：7日間
- **微生物グレード**：ジャクソンラボラトリージャパン SPF項目
- **麻酔薬**：ケタミン・キシラジン混合麻酔薬
- **鎮痛剤**：ブプレノルフィン 0.01-0.05mg/kg S.C. SID 手術当日のみ
カルプロフェン 5mg/kg S.C. SID 手術当日から術後2日
- **抗生物質**：投与なし(必要に応じて投与)

処置概要

1. 体重測定及び一般症状観察を実施後、ケタミン・キシラジン混合麻酔薬を腹腔内に投与する。
2. 頸部腹側を除毛し、イソジン液及び70%エタノール液を用いて術野を消毒し、仰臥位に動物を固定する。
3. 頸部腹側皮膚を正中切開後、胸骨舌骨筋を切開し、気管を露出する。
4. 露出した気管にエアウエイを穿刺し、気道の確保を行い、顎舌骨筋を剥離する。
5. 蝶形後頭軟骨縫合部を確認、中心部をドリルで穿孔、下垂体直上の蝶形骨を切除する。
6. バキューンプを用いて下垂体を吸引、摘出する。
7. 止血を確認後、縫合糸にて頸部腹側術創を縫合する。

※本書式に記載された術式は、ジャクソン・ラボラトリー・ジャパン株式会社手術グループ手順書「ラット下垂体摘出手術」(承認No.1275)の内容に準ずる。

手術の精度に関する事項

下垂体摘出動物は、弊社にて1週間の術後観察と体重推移データ採取により、摘出の可否判断を実施しておりますが、下垂体不完全摘出個体が、手術侵襲により下垂体摘出された個体と同様の体重増減動向を示す個体もいるため、体重のみでの摘出判断が難しい場合がございます。試験終了時には解剖等により摘出されていることをご確認ください。

通常は下垂体摘出により体重増加の減少(成長ホルモンの消失)が見られますが、試験途中でも無処置、偽手術群との体重比較により、差がない個体につきましては、下垂体の不完全摘出による影響の可能性もございますので、血中ホルモンの値をご確認ください。

配送情報

- 輸送箱：プラスチッククレート
- 梱包形態：ラット1-4匹/クレート、マウス1-8匹/クレート

